

【大学間協定留学】留学近況報告書

記入日	2025年10月19日
留学先大学/国名	中央財経大学 (日本語名)国名: 中国 中国語 (現地言語名)
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
留学期間	2025年9月～2026年1月
明治大学の所属学部等 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部
学年 ※出発時の本学での学年	4年生
I. 出発前にどのように情報を集め、準備をしましたか。しておいて良かったこと、準備不足だったこと、ぜひ次の学生に準備としてアドバイスしたいことを記述してください。	
<p>明治大学の交換留学プログラムで中国の中央財経大学に留学した。出発前の情報収集としては、まず中央財経大学の公式ウェブサイトを確認した。そこには入学手続きや到着時期、キャンパス情報など、留学生活に必要な情報が多く掲載されており、とても役に立った。また、中央財経大学からメールを受け取った際に、担当の先生の WeChat を追加し、直接質問できるようにした。実際、現地の先生にメッセージで問い合わせることで、手続きや生活に関する疑問をすぐに解決できたのは良かったと思う。さらに、中国の SNS に質問の投稿をすると、多くの中央財経大学の学生が返信してくれたため、リアルな学生生活の情報を得ることができた。</p> <p>一方で、準備不足だった部分もあった。特に「授業の選択」に関しては、出発前にシラバスをもらえなかっただため、どの授業を履修すべきか分からず、誰に相談すればよいのかも分からなかった。明治大学の履修システムとは全く違い、最初はとても戸惑った。</p> <p>次に中央財経大学へ留学する学生へのアドバイスとしては、「中国語をしっかり勉強しておくこと」を強く勧めたい。中央財経大学では英語がほとんど使われず、多くの留学生(特に東南アジアからの学生、全体留学生中の約 70%)は中国語しか話さない。そのため、中国語ができないと友達を作るのが難しく、交流の機会も限られてしまう。少しでも日常会話ができるように準備しておくことが、留学生活をより豊かにする鍵だと思う。</p>	

II -1. 留学のための渡航前手続き(留学ビザ) ※詳細に記入して下さい

ビザの種類: 中国籍なので、ビザ必要ない	申請先: 大使館
ビザ取得所要日数: 多分 10 日間 (申請してから何日 / 何週間要したか)	ビザ取得費用:
1. ビザ取得のためにどのような書類の提出が求められましたか? また、どのように手配しましたか?	
中国籍なので、分からない。	
2. 具体的な申し込み手順を教えて下さい。	
中国籍なので、分からない。	
3. ビザ取得の際に、留学先国大使館で面接のあった方は、どのような質問を受けましたか?	
中国籍なので、分からない。	
4. ビザ取得に関して困った点・注意点	
中国籍なので、分からない。	

II -2. 留学のための渡航前手続き(その他の事前準備について)

その他済ませておくべき準備があればお書き下さい(現地での現金調達準備、携帯電話購入、荷物運送等)。

中国では現在、現金を使う機会がほとんどなく、ほとんどの支払いは WeChat Pay(微信支付)や Alipay(支付宝)で行われている。そのため、出発前にこれらのアプリをスマートフォンにダウンロードし、クレジットカード(特に Visa カード)をあらかじめ登録しておくことを強く勧めたい。これを準備しておくと、到着後すぐに買い物や食事の支払いがスムーズにできる。

携帯電話については、もし iPhone を使用していれば、中国でもそのまま問題なく利用できる。現地に到着したら、パスポートを提示して SIM カードを契約することができるので、通信環境の準備もそれほど難しくない。

また、私は中国国籍を持っているため、一部の手続き(銀行口座や通信契約など)は外国人留学生とは異なる方法で行う必要があった。そのため、国籍や在留資格によって手続きの流れが異なる点を、事前に確認しておくことも大切だと感じた。

III. 現地到着後のながれ

1. 到着時の様子

利用航空会社	中国東方航空会社				
航空券手配方法	東方航空会社公式サイト ※利用した旅行社・旅行サイト・格安航空券情報等があれば記入				
大学最寄空港名	首都空港		現地到着時刻	20 時 40 分	
キャンパスへの移動手段	<input type="checkbox"/> 大学手配の出迎え	<input type="checkbox"/> 知人の出迎え	<input type="checkbox"/> 公共交通機関 (<input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> 電車)	<input checked="" type="checkbox"/> タクシー	<input type="checkbox"/> その他 ()
移動の所要時間	1 時 20 分				

空港からキャンパスへの移動の際の注意点、タクシー・公共交通機関で移動する際の行き方、料金等

首都空港から中央財経大学までは、配車アプリ(didi)を利用して移動することができる。ただし、空港内の乗車場所が少し分かりにくいため、事前にアプリ上でピックアップポイントを確認しておくと良い。料金はおよそ 120 元人民幣(約 2,500 円)程度である。

大学到着日	9 月 1 日 8 時頃
-------	--------------

2. 住居について				
到着後すぐに住居入居できましたか?	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ	いいえを選んだ方: 9	月 1	日から入居可能だった。
住居のタイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> その他()			
部屋の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 一人部屋 <input type="checkbox"/> 二人部屋 <input checked="" type="checkbox"/> その他(留学生の寮については、基本的にすべての留学生が2人部屋に滞在しているが、私だけが例外的に1人部屋で生活している。)			
ルームメイト	<input type="checkbox"/> 日本人学生 <input type="checkbox"/> 他国からの留学生 <input checked="" type="checkbox"/> その他()			
住居を探した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 自分で探した <input type="checkbox"/> その他()			
住居の申込み手順	学校に到着すると、担当の先生が直接案内や手続きをしてくれるので、特に迷うことはなかった。到着後は先生の指示に従えば、寮の入居や学生証の受け取りなどもスムーズに進む。			
住居は渡航前に、また渡航後すぐに見つかりましたか? ラブルはありましたか?				
住居は渡航前に中央財経大学から事前に手配されており、到着後は担当の先生が直接案内してくれたため、特に大きな問題はなかった。				
3. 留学先でのオリエンテーションについて				
オリエンテーションの有無	<input type="checkbox"/> あつた <input checked="" type="checkbox"/> なかつた			
日程				
参加必須ですか?	<input type="checkbox"/> 必須 <input type="checkbox"/> 任意参加			
参加費用は?	<input type="checkbox"/> 無料 <input type="checkbox"/> 有料(金額:)			
内容と様子は?				
留学生用特別ガイダンス	<input type="checkbox"/> あつた <input checked="" type="checkbox"/> なかつた			
授業開始日	月 日から			



IV. その他、渡航してから必要な手続きについて

1. 現地で滞在許可等の申請の必要はありますか？ いつ、どこで、方法は？ 日数、料金は？ ラブルは？

中国籍であるため、必要ありません。

2. その他現地でした手続きは（健康診断、予防接種等）？ いつ、どこで、方法、日数、料金は？ ラブルは？

中国籍であるため、必要ありません。

3. 現地で銀行口座を開設しましたか？ 手続方法、必要書類、日数、料金は？ ラブルは？

中国籍であるため、必要ありません。

4. 現地で携帯電話を購入しましたか？ 手続方法、必要書類、日数、料金は？ ラブルは？

中国籍であるため、必要ありません。

V. 履修科目と授業について

1. 履修登録はいつどのような形で行いましたか？

出発前に（8月1日頃）

オンラインで登録 志願書類に記入して登録 できなかった その他（先生に履修したい科目を伝える。）

到着後に（9月15日頃）

オンラインで登録 国際オフィス等の仲介 できなかった その他（ ）

登録時に留学生として優先されることありましたか？

あった なかつた

優先が「あった」方はどのように優先されましたか？

優先が「なかつた」方はどのように登録しましたか？

中央財経大学の履修登録システムでは、最低2科目、最大4科目まで選択する必要がある。私は最初に履修登録を行った際、登録申請が却下されてしまった。理由が分からず少し困ったが、その後、交換留学を担当している先生に相談し、状況を説明したところ、問題が解決し、無事に登録が認められた。

2. 出発前に授業を登録した方は、現地で変更・追加できましたか？ また希望通りの授業が取れましたか？

出発前に選択した授業は別のキャンパスで開講されていたが、実際に中央財経大学に到着した後、担当の先生から「その科目は交換留学生には開放されていない」と知らされ、再度履修を選び直す必要があった。

VI. 一週間のスケジュール 授業時間、課外活動、勉強時間等、毎日の生活について記入

	月	火	水	木	金	土	日
5: 00							
6: 00	サイクリング						
7: 00	サイクリング						
8: 00	サイクリング						
9: 00	サイクリング						
10: 00				授業時間			
11: 00	勉強	勉強	勉強	授業時間	勉強		
12: 00	勉強	勉強	勉強	授業時間	勉強		
13: 00	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強		
14: 00	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強		
15: 00	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強		
16: 00	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強		
17: 00	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強		
18: 00	勉強	勉強	勉強	勉強	勉強		
19: 00	勉強	勉強	勉強	授業時間	勉強		
20: 00				授業時間			
21: 00				授業時間			
22: 00							
23: 00							
24: 00							

VII. 現在までの感想

留学先大学、プログラムについて、授業、宿舎、生活全般について等、自由に書いてください。

中央財経大学は、中国における重点大学の一つであり、経済学、金融学、経営学の分野で特に高い評価を受けている名門校である。985 大学ではないが、211 大学として認定されており、中国全体の大学ランキングではおおよそ上位 15 位以内に入る。特に経済・金融分野においては常に全国トップ 3 に位置していると言われている。

学生たちは全体的に非常に勤勉で、競争意識も強い。図書館や自習室では、いつも多くの学生が熱心に勉強しており、その真剣な姿勢に強い印象を受けた。中央財経大学のキャンパス全体には学習意欲の高い雰囲気が漂っており、中国の学生が非常に高い自律性と向上心を持って学業に取り組んでいることを肌で感じた。キャンパスの環境も非常に整っている。規模はそれほど大きくないが、清潔で美しく、緑が多い。建物は現代的で機能的に設計されており、学問的な雰囲気と生活の便利さが両立している。学内には非常に大きな食堂があり、中華料理や地方料理、ハラール料理まで多様なメニューが揃っている。食事の値段も手頃で、一食あたり平均 15 元ほどで十分に満足できる。また、キャンパス内にはコンビニやカフェ、果物屋、印刷店などの施設もあり、生活に必要なものはすべて揃っている。外出しなくとも快適に生活できる環境が整っており、学生生活を支える大学側の配慮を感じた。

交換留学の魅力は、日本の大学とは全く異なる学習環境と教育スタイルを体験できる点にあると思う。中央財経大学の授業は、明治大学の授業とは大きく異なり、より理論的な内容を重視している。授業では、教授が基礎理論から丁寧に説明を進め、学生に深い理解を促す。時には1回の授業で扱う内容が非常に多く、復習に多くの時間をかけなければならないこともあった。一方、日本の大学の授業は学生同士の議論や発表を重視する傾向が強いが、中国の授業はどちらかというと教師主導型で、学生は集中して講義を聞くスタイルが一般的である。インタラクションは少ないものの、内容の深さと理論性は非常に高く、私にとって新しい学びの形だった。

私は現在4年生であり、週に2コマの授業しかなかった。そのため授業の負担は重くなかったが、自由な時間を使って中国の社会や経済について学ぶことができた。履修した科目の中には経済政策や国際金融に関する授業があり、中国の最新の経済データや政府の政策事例をもとに講義が行われた。これにより、中国経済の成長構造や政策運営の特徴をより実感をもって理解できたほか、日中両国の経済モデルの違いを比較するよい機会にもなった。

宿舎については、非常に恵まれていたと思う。中央財経大学では、一般的な留学生(学部生・大学院生を問わず)は基本的に2人部屋で生活しているが、明治大学からの交換留学生のみが1人部屋を利用できる特別な待遇を受けている。私の部屋は広くて快適で、独立したバスルーム、エアコン、机、クローゼットが備わっていた。宿舎費は1日あたり80元と少し高めだが、環境と利便性を考えれば十分に納得できる。教室や食堂からも近く、徒歩5分ほどで移動できるため、学習にも生活にも非常に便利だった。

生活面では、中国語ができるかどうかが大きな違いになる。中国語を話せれば、日常生活もスムーズに進み、友人も作りやすい。中央財経大学の留学生の多くは東南アジアから来ており、中国語を流暢に話す人が多い。一方で、英語を使う機会は少なく、英語だけではコミュニケーションが難しい場面もある。私は中国語が話せたので、生活上の不便はほとんどなく、多くの中国人学生と知り合うことができた。彼らはとても親切で、外国人学生にも積極的に声をかけてくれるため、温かい雰囲気の中で生活することができた。しかし、交換留学生として現地の学生社会に完全に溶け込むのは簡単ではないと感じた。理由の一つは、交換留学生は特定の学部に所属していないため、現地の学生と同じクラスで活動する機会が少ないと感じた。中国の学部生はクラスメート同士のつながりが強く、授業や昼食、試験勉強などを一緒に行動するのが一般的である。一方で、交換留学生は独立して行動することが多く、そのため自然に交友関係を築くのが難しいと感じた。さらに、履修科目が少ないため、中国人学生と接する時間自体も限られてしまう。

中央財経大学での数か月を通じて、中国の教育が持つ「集団性」と「目標志向」を強く実感した。学生たちの努力と向上心には深い敬意を抱いた。また、日本と中国の教育理念の違いについても改めて考えさせられた。日本では個人の興味や自由な選択を重視する一方で、中国では集団としての成果や社会的競争力の向上を重んじる傾向がある。どちらにも長所があり、双方を比較することで「学ぶことの意味」を改めて見つめ直す良い機会になった。

中国の大学生活はテンポが速く、競争も激しいが、その分、活力と可能性に満ちている。将来中国に留学を考えている学生に対しては、出発前にしっかり中国語を勉強し、中国の文化や習慣を理解しておくことを強く勧めたい。また、異なる環境に対しては柔軟で開かれた心を持ち、積極的にコミュニケーションを取ることが大切である。一步踏み出す勇気さえあれば、多様で活気ある世界が必ず広がっていくと感じた。